

子育て中の保護者を対象とした「食品添加物」に関するアンケート

調査結果

令和5(2023)年度
保健福祉部生活衛生課

1. 目的

今回のアンケート調査は、0歳～12歳の子どもを育てている子育て世代に対してアンケートを実施し、食品添加物のどのようなところに対して不安を感じているのかを調査し、その不安に対してリスクコミュニケーションを実施することにより、食の安全への不安の軽減を図る。

2. 調査実施の概要

(1) アンケート期間

令和6(2024)年1月10日～19日

(2) アンケート方法

オンライン調査(インターネットにより調査票の配布、インターネットを通じて、モニターがアンケート専用ホームページから回答、回収)

(3) 調査対象: 栃木県内在住の0歳～12歳の子どもの保護者(メルマガ会員等) 10,523人

内訳

- ・メルマガ会員(1,600人)
- ・facebook(2,298人)
- ・インスタグラム(4,920人)
- ・LINE(1,705人)

(4) 回答者数

117人

(5) 回答率

1.1%

(6) アンケート委託先

会社概要

商号 株式会社ビジュアル

設立 1991年3月26日

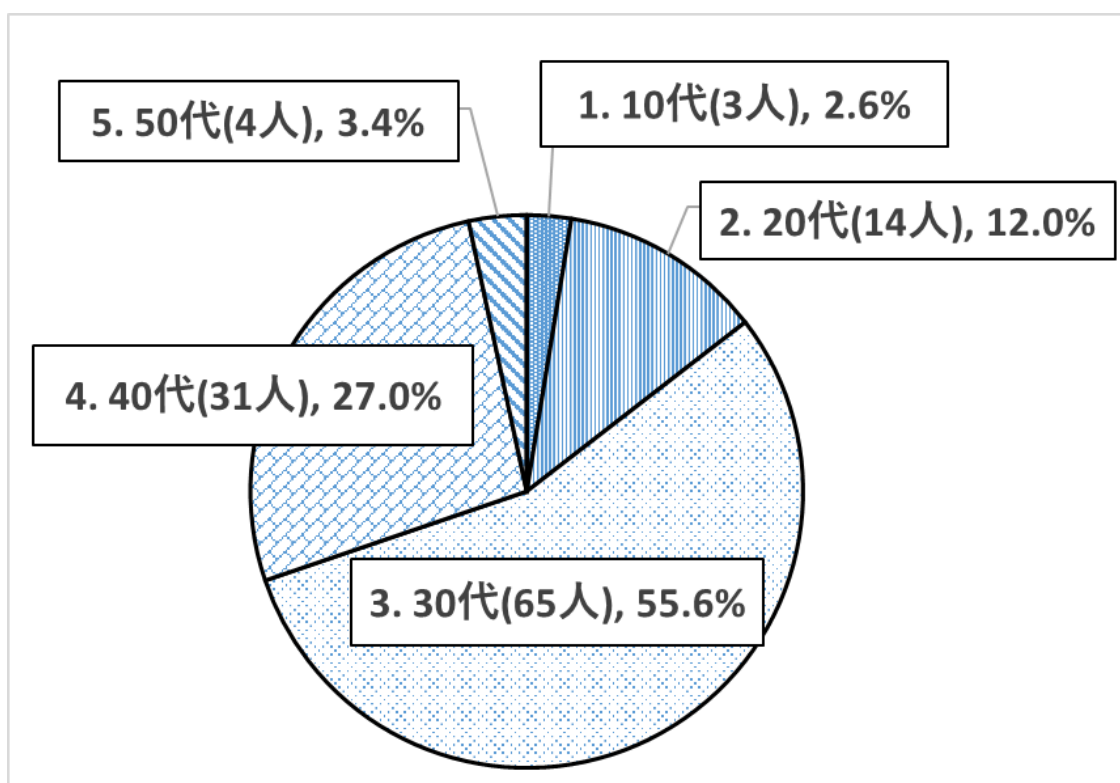
代表者 代表取締役社長 深澤明子

所在地 栃木県宇都宮市下川俣町 166-1

3. 調査の結果

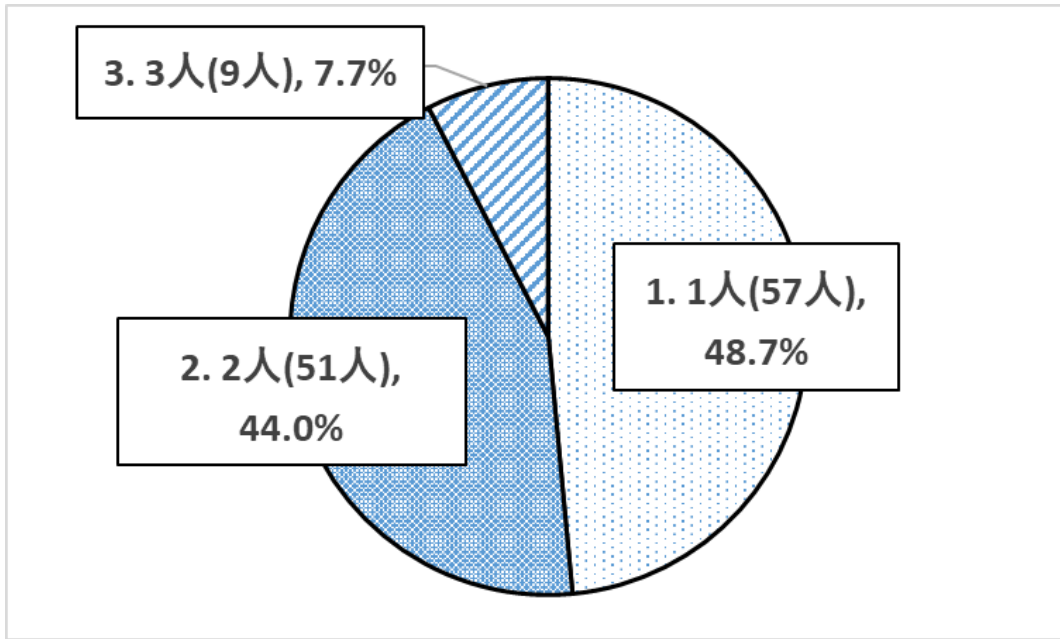
Q1 あなたの年齢は何歳ですか？

選択肢	回答者	割合
1. 10代	3人	2.6%
2. 20代	14人	12.0%
3. 30代	65人	55.6%
4. 40代	31人	27.0%
5. 50代	4人	3.4%
6. 60代以上	0人	0.0%



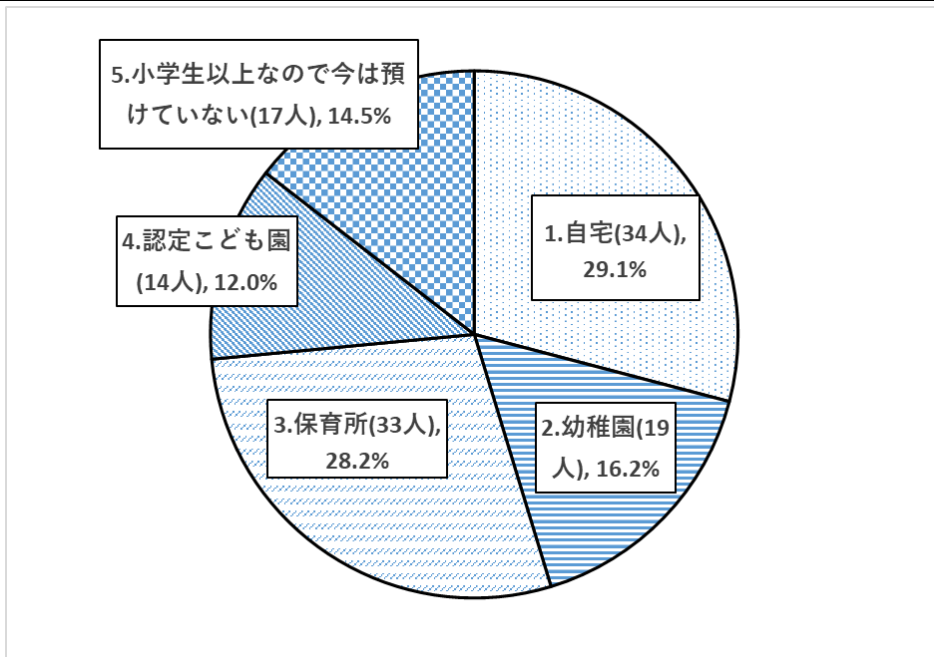
Q2 あなたのお子さんの人数は何人ですか？

選択肢	回答者	割合
1. 1人	57人	48.7%
2. 2人	51人	44.0%
3. 3人	9人	7.7%
4. 4人以上	0人	0.0%
5. その他	0人	0.0%



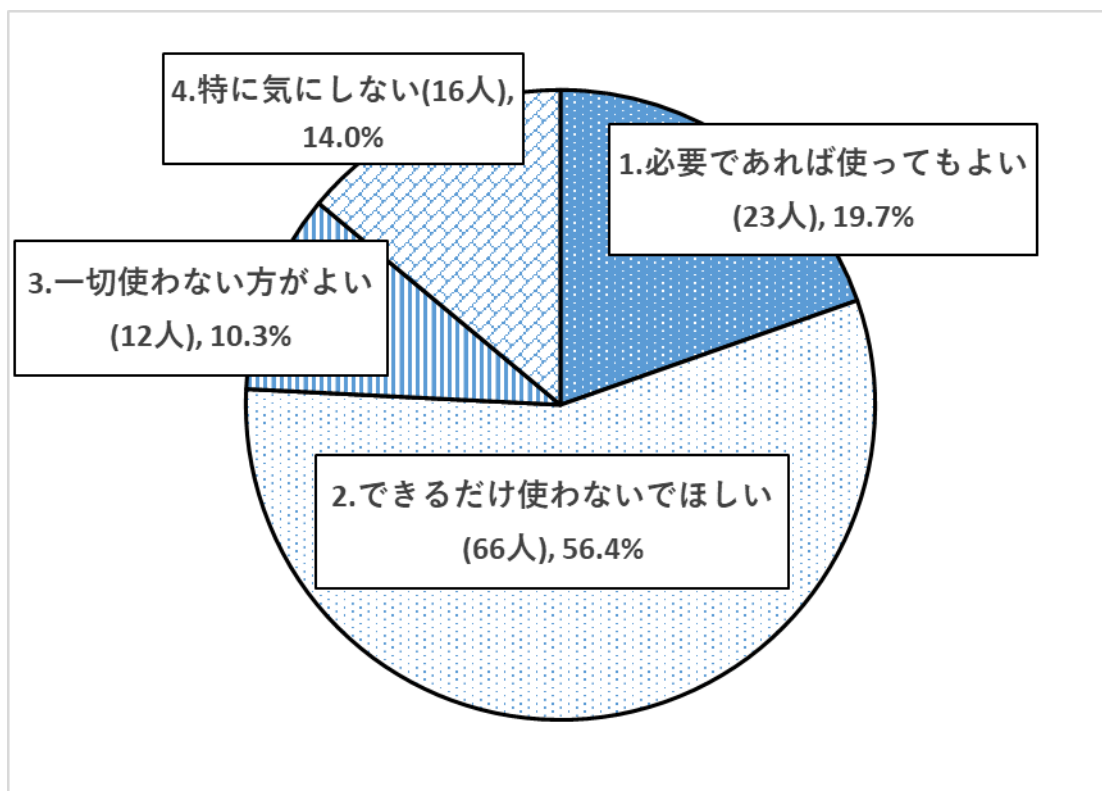
Q3 お子さんの平日の保育場所は主にどこですか？（1つ選ぶ）

選択肢	回答者	割合
1.自宅	34人	29.1%
2.幼稚園	19人	16.2%
3.保育所	33人	28.2%
4.認定こども園	14人	12.0%
5.小学生以上なので今は預けていない	17人	14.5%
6.その他	0人	0.0%



Q4 市販の食品に含まれる食品添加物について、あなたの考えや気持ちに近い項目はどれですか？（1つ選ぶ）

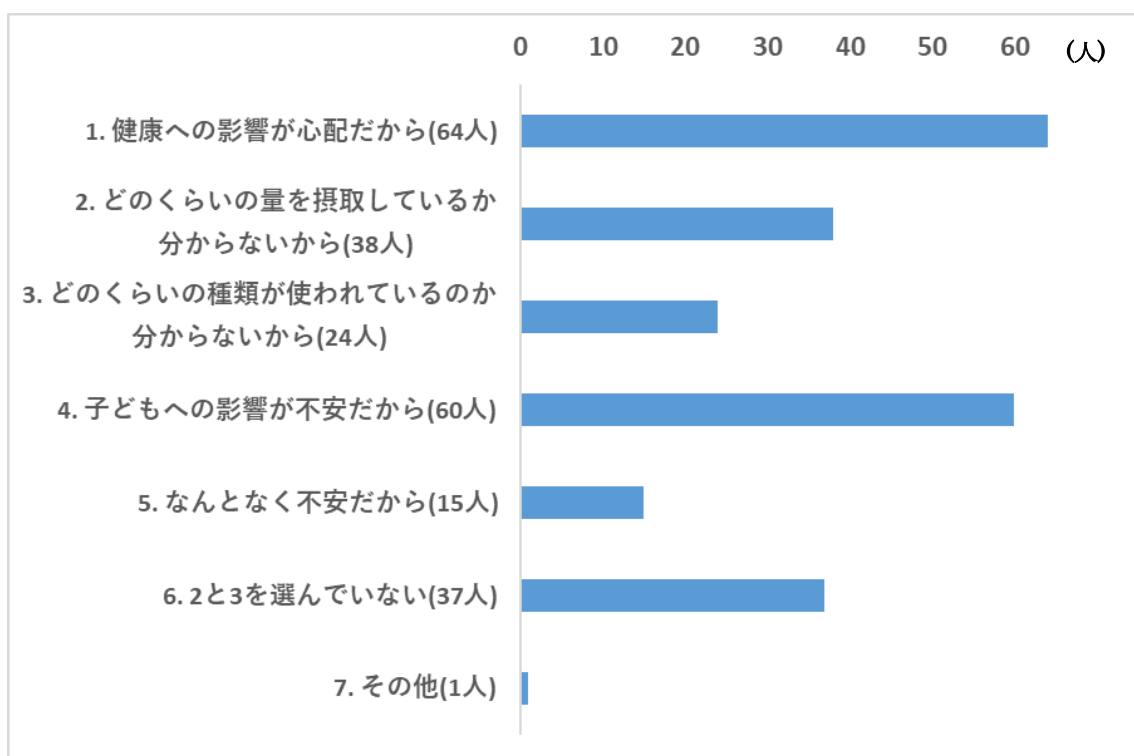
選択肢	回答者	割合
1.必要であれば使ってもよい	23 人	19.7%
2.できるだけ使わないでほしい	66 人	56.4%
3.一切使わない方がよい	12 人	10.3%
4.特に気にしない	16 人	14.0%



市販の食品に含まれる食品添加物について、「できるだけ使わないでほしい」(56.4%/66 人)が最も高く、「必要であれば使ってもよい」(19.7%/23 人)、「特に気にしない」(14.0%/16 人)、「一切使わない方がよい」(10.3%/12 人)と続いている。

Q5 Q4で2と3を選んだ方にお聞きします。食品添加物について使わないでほしい、又は一切使わないほうがよいと思う理由は何ですか？(複数回答可)

選択肢	回答者	割合
1. 健康への影響が心配だから	64人	54.7%
2. どのくらいの量を摂取しているか分からないから	38人	32.5%
3. どのくらいの種類が使われているのか分からないから	24人	20.5%
4. 子どもへの影響が不安だから	60人	51.3%
5.なんとなく不安だから	15人	12.8%
6. 2と3を選んでいない	37人	32.0%
7. その他	1人	6.0%



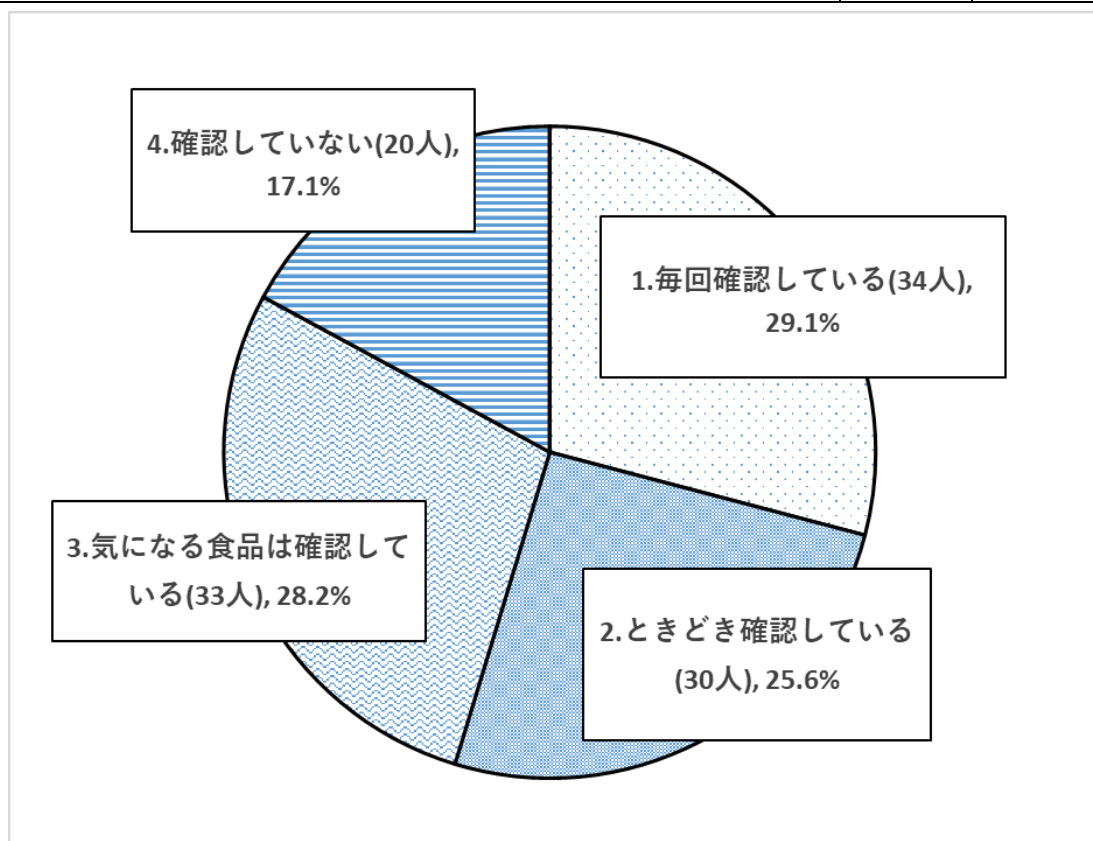
食品添加物について使わないでほしい、又は一切使わないほうがよいと思う理由は何かの問いに対して、「健康への影響が心配だから」(54.7%/64人)が最も高く、「子どもへの影響が不安だから」(51.3%/60人)、「どのくらいの量を摂取しているか分からないから」(32.5%/38人)、「どのくらいの種類が使われているのか分からないから」(20.5%/24人)、「なんとなく不安だから」(12.8%/15人)と続いている。

○「その他」の意見(原文を記載)

そもそもキャリーオーバーで表記されていないものさえあるので全くとらないということとはできないが、日本は諸外国でとうの昔に禁止されている危険性の高い添加物を未だに使用しているため、そういったものは一切取らせたくない。安全性が高いものであれば、酸化防止等の保存料として致し方ないと思う。

Q6 あなたは食品を購入する際に、食品添加物について確認していますか？(1つ選ぶ)

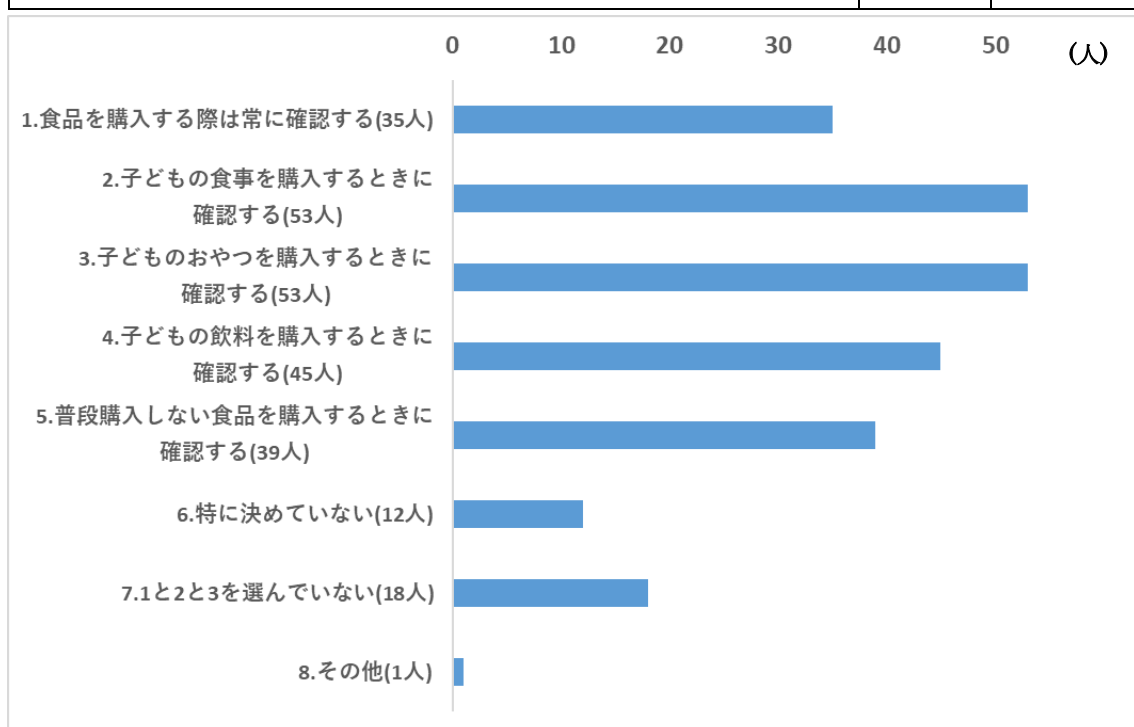
選択肢	回答者	割合
1.毎回確認している	34人	29.1%
2.ときどき確認している	30人	25.6%
3.気になる食品は確認している	33人	28.2%
4.確認していない	20人	17.1%
5.その他	0人	0.0%



食品を購入する際に、食品添加物について確認しているかの問いに対して、「毎回確認している」(29.1%/34人)が最も高く、「気になる食品は確認している」(28.2%/33人)、「ときどき確認している」(25.6%/30人)、「確認していない」(17.1%/20人)と続いている。

Q7 Q6 で 1 と 2 と 3 を選んだ方にお聞きします。どのようなときに食品添加物を確認しますか？
(複数回答可)

選択肢	回答者	割合
1.食品を購入する際は常に確認する	35 人	29.9%
2.子どもの食事を購入するときに確認する	53 人	45.3%
3.子どものおやつを購入するときに確認する	53 人	45.3%
4.子どもの飲料を購入するときに確認する	45 人	38.5%
5.普段購入しない食品を購入するときに確認する	39 人	33.3%
6.特に決めていない	12 人	10.3%
7.1 と 2 と 3 を選んでいない	18 人	15.4%
8.その他	1 人	0.9%



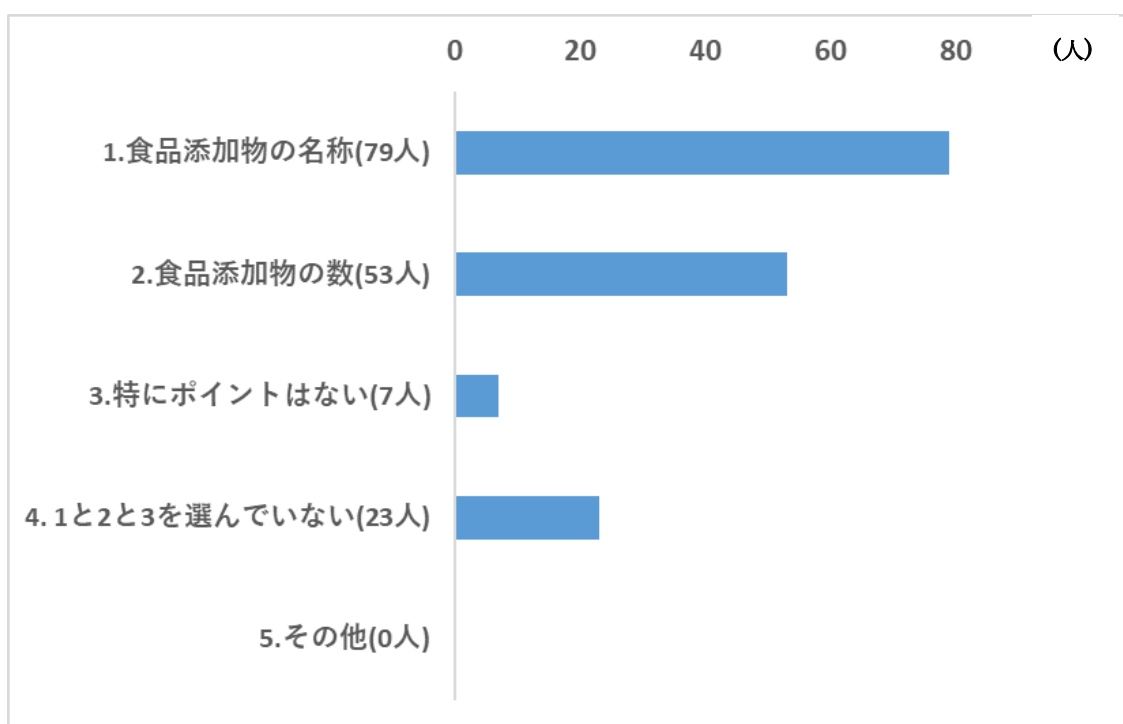
どのようなときに食品添加物を確認しているかの問いに対して、「子どもの食事を購入するときに確認する」(45.3%/53 人)と「子どものおやつを購入するときに確認する」(45.3%/53 人)が最も高く、「子どもの飲料を購入するときに確認する」(38.5%/45 人)、「普段購入しない食品を購入するときに確認する」(33.3%/39 人)、「特に決めていない」(10.3%/12 人)と続いている。

○「その他」の意見(原文を記載)

加工肉や缶詰など

Q8 Q6 で 1 と 2 と 3 を選んだ方にお聞きます。食品を購入する際に、食品に使われている食品添加物を確認するときのポイントは何ですか？（複数回答可）

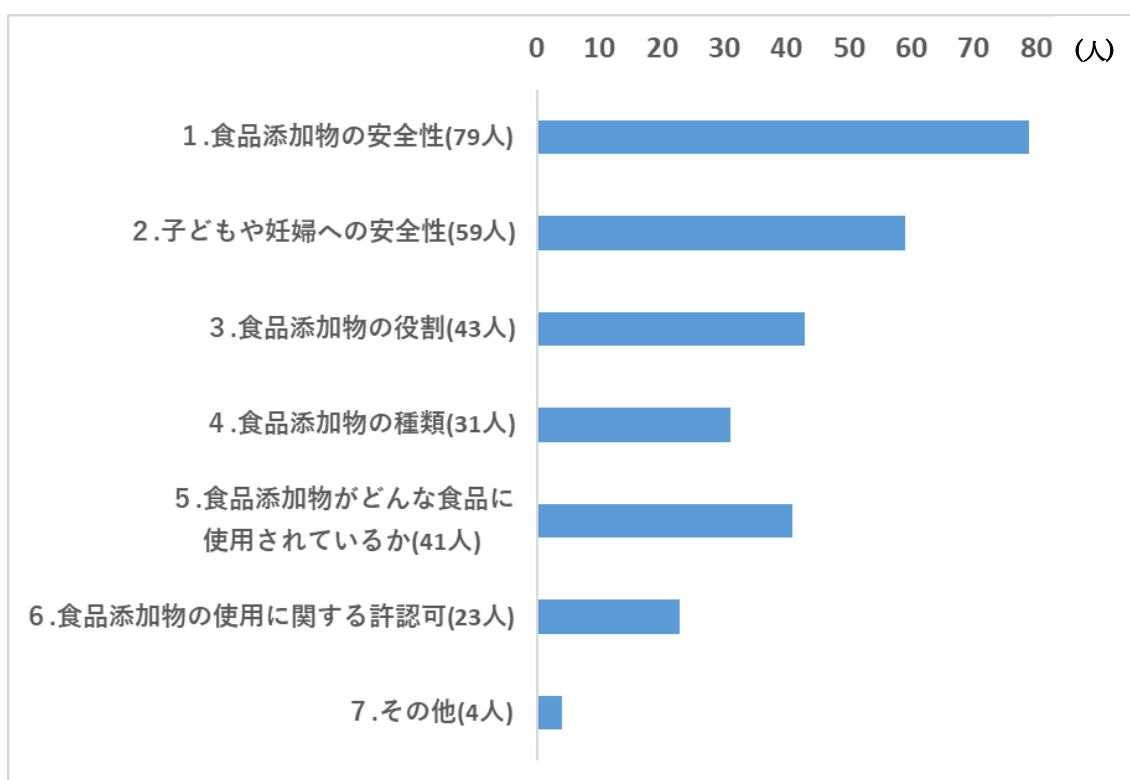
選択肢	回答者	割合
1.食品添加物の名称	79 人	67.5%
2.食品添加物の数	53 人	45.3%
3.特にポイントはない	7 人	6.0%
4. 1 と 2 と 3 を選んでいない	23 人	19.7%
5.その他	0 人	0.0%



食品を購入する際に、食品に使われている食品添加物を確認するときのポイントは何かの問いに対して、「食品添加物の名称」(67.5%/79 人)が最も高く、「食品添加物の数」(45.3%/53 人)、「1 と 2 と 3 を選んでいない」(19.7%/23 人)、「特にポイントはない」(6.0%/7 人)と続いている。

Q9 食品添加物についてどのようなことを知りたいですか？(2つ選ぶ)

選択肢	回答者	割合
1.食品添加物の安全性	79 人	67.5%
2.子どもや妊婦への安全性	59 人	50.4%
3.食品添加物の役割	43 人	36.7%
4.食品添加物の種類	31 人	26.5%
5.食品添加物がどんな食品に使用されているか	41 人	35.0%
6.食品添加物の使用に関する許認可	23 人	19.7%
7.その他	4 人	3.4%



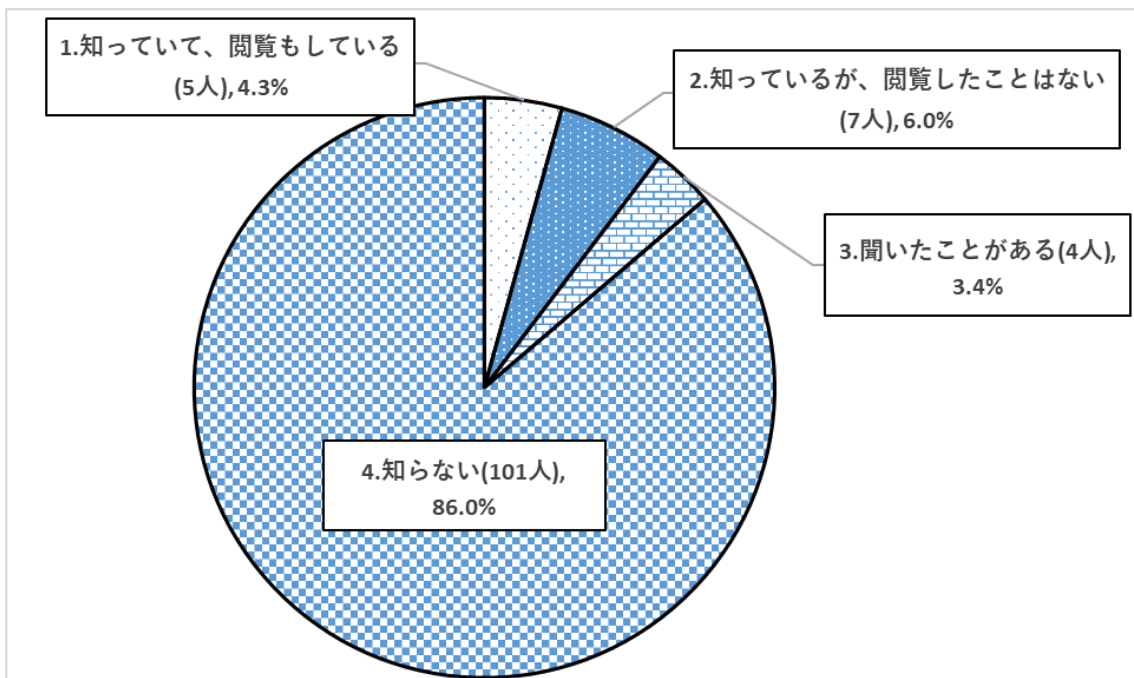
食品添加物についてどのようなことを知りたいですかの問いに対して、「食品添加物の安全性」(67.5%/79 人)が最も高く、「子どもや妊婦への安全性」(50.4%/59 人)、「食品添加物の役割」(36.7%/43 人)、「食品添加物がどんな食品に使用されているか」(35.0%/41 人)、「食品添加物の種類」(26.5%/31 人)、「食品添加物の使用に関する許認可」(19.7%/23 人)、「その他」(3.4%/4 人)と続いている。

○「その他」の意見(原文を記載)

- ・遺伝子組み換え作物を原料とした食品添加物の種類や名称、食品添加物の安全性や危険性を知りたい
- ・食品添加物の害悪について必要以上に気にしている人は、その害悪についての情報をどこで、または誰から仕入れたのか。
- ・日本では大丈夫でも海外では NG な食品添加物がある場合、なぜ海外は NG なのか、なぜ日本は OK なのか知りたい。
- ・食品添加物が及ぼす影響。

Q10 栃木県では「とちまる食の安全通信」を SNS(Facebook、twitter)にて運営しています。閲覧したことがありますか？(1つ選ぶ)

選択肢	回答者	割合
1.知っている、閲覧もしている	5人	4.3%
2.知っているが、閲覧したことはない	7人	6.0%
3.聞いたことがある	4人	3.4%
4.知らない	101人	86.0%



「とちまる食の安全通信」に関する問いに対して、「知らない」(86.0%/101人)が最も高く、「知っているが、閲覧したことはない」(6.0%/7人)、「知っている、閲覧もしている」(4.3%/5人)、「聞いたことがある」(3.4%/4人)と続いている。

3. 考察

(1) 回答者について

・Q2 の回答結果は、1人(48.7%)、2人(44.0%)、3人(7.7%)の順であり、令和4(2022)年国民生活基礎調査(厚生労働省調べ)の1人(9.0%)、2人(6.9%)、3人以上(2.3%)と同じ順であった。

・Q3 の回答結果は、自宅(29.1%)、保育所(28.2%)、幼稚園(16.2%)、認定こども園(12.0%)の順であったが、平成 30 年度幼稚園・保育所等の年齢別利用者数及び割合(文部科学省調べ)では保育園(36.5%)、幼稚園(20.4%)、幼保連携型認定こども園(10.1%)であった。

(2) 食品添加物について

・Q4 について

食品安全委員会が平成 20 年に実施した調査^{(*)1}では、中学生の子をもつ保護者のうち、「できるだけ使わないでほしい」(76.4%)と「いらないと思う」(8.9%)を合わせた 85.3%が添加物に対して否定的な考えであった。今回の結果と平成 20 年に実施した調査^{(*)1}を比較すると、否定的な意見の割合が減少しており(85.3%→66.7%)、平成 20 年から現在に渡る食品添加物に関する消費者教育が影響していると考えられる。

・Q5 について

食品安全委員会が平成 20 年に実施した調査^{(*)1}では、中学生の子をもつ保護者が食品添加物について気になることは「健康への影響」(90.3%)、「どのくらいの量を実際に摂取しているか」(44.2%)、「どのくらいの種類が使われているか」(25.3%)という結果であった。今回実施したアンケート結果も同様に「健康への影響」、「食品添加物の摂取量」、「食品添加物の種類」の順であったことから、消費者が食品添加物について不安に思うことは変化していないと考えられる。

・Q6 について

消費者庁が実施した令和4年度食品表示に関する消費者意向調査^{(*)2}では、「添加物」の表示を商品選択のために「いつも参考にしている」と回答した割合は 16.6%であり、今回の調査(「毎回確認している」(29.1%))はより高い割合であった。また、2～6歳までの幼児をもつ保護者を対象としたインターネット調査^{(*)3}では「食品を購入、利用する際に食品添加物表示を参考にするか」の質問に対し、76.5%が「いつも、ときどき参考にしている」と回答している。これらの調査結果から、「添加物」の表示を確認する契機として、子どもの出産・育児が考えられる。

・Q7 について

令和4年度食品表示に関する消費者意向調査^{(*)2}から、子どもの有無にかかわらず食品添加物の表示を確認する消費者は一定数いるが、今回の調査及びインターネット調査^{(*)3}の結果から、子どもの存在が食品添加物の確認行動の増加に影響していると考えられる。

・Q8について

確認のポイントに「食品添加物の名称」を回答した割合が最も高かったことから、食品添加物に対して漠然と関心を抱いているのではなく、防腐剤や保存料など個別具体的な食品添加物に関心や不安を抱いていると考えられる。

また、確認のポイントとして約半数が「食品添加物の数」を回答した状況は、Q4 における食品添加物に対する否定的な意見(66.7%)が反映されていると考えられる。

・Q9について

知りたいことに「食品添加物の安全性」や「子どもや妊婦への安全性」を回答した割合が高かったことから、食品中での食品添加物の役割よりも、食品添加物が人体へ与える影響に興味や不安を抱いていると考えられる。

(3)「とちまる食の安全通信」について

「とちまる食の安全通信」を「知っていて、閲覧もしている」が、4.3%と依然として認知度は低い。更なる PR 活動が必要であると考えられる。

4. 結論

食品添加物に対して不安を抱いている消費者は多いことが、食品安全委員会のアンケート調査結果で示されている^{(*)4}。今回も同様の結果が得られており、子育て世代(保護者)が食品添加物に対して不安を抱いていることが改めて示された。

食品添加物の役割や機能等の情報提供が消費者のリスク認知に影響を与え、消費者行動に現れることが示されていることから^{(*)5}、行政側から食品添加物に関する健康影響評価及び食品表示について説明するだけでなく、食品関連事業者等から食品添加物の実際の使用状況や使用意義、利点を説明した後に参加者による意見交換会を実施することは、食品添加物に対する不安軽減に有益であると考えられる。

*1: 食品健康影響評価の啓発に関する調査(食品添加物編)

～意識調査&ビデオによる啓発効果測定調査～平成 20 年3月

*2: 令和4年度食品表示に関する消費者意向調査 令和5年3月

*3: 幼児を持つ母親の食のリスクの考え方、知識、意識および行動

日本公衆衛生雑誌 64(9)2017.

*4: 食品に係るリスク認識アンケート調査の結果について 平成 27 年 5 月 13 日

*5: 保存料に関するリスク情報・ベネフィット情報の提供が消費者行動に与える影響

日本リスク研究学会誌 22(4)2012.